

令和6年度高崎市総合教育会議 会議録

日 時 令和6年12月19日(木) 午後2時00分から午後3時02分まで

会 場 庁議室

出席者

(市長)

富岡賢治

(教育長)

小林良江

(教育委員)

教育長職務代理者	田野内 明 美	委	員	塩 野 有 希
委 員	新 井 英 夫	委	員	横 田 裕 正

(事務局)

教育部長	青 柳 正 典	学校教育担当部長	依 田 哲 夫
教育総務課長	宮 澤 信 宏	教職員課長	岡 田 朝 夫
学校教育課長	松 村 久 美	健康教育課長	亀 山 理 映
教育センター所長	小 池 芳 典		
教育総務課長補佐	清 水 雅 仁		

教 育 長	令和6年度高崎市総合教育会議を始めさせていただきます。 この総合教育会議は、滋賀県大津市の中学2年生がいじめで自殺をしたことについて、教育委員会が何も知らなかったという事実に対して様々な論議を受けて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正となり、2015年から、総合教育会議を開くことになりました。また、会議を招集するのは、地方公共団体の長、高崎市では市長ということになります。市長と教育委員が自由に意見を交換する会議になりますので、今日は皆さんよろしくお願いします。 それでは、最初に富岡市長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。
市 長	お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。 ヤングケアラーの対策では、教育委員会には大変頑張ってもらっています。私も始めはヤングケアラーというのは中学生や高校生だと思っていましたが、実態は、3分の1は小学生ということです。小学校低学年の子が、学校から帰ってきてすぐに寝たきりのご家族のケアをするというのがヤングケアラーの実態の一部だということで、なかなか大変なことだと思います。教育委員会、事務局に頑張ってもらっていて、また各学校からの提起に基づいて、いろいろと状況は違いますが、それに合わせて一人一人の家庭ごとにワーキングチームを作って対策を考えています。スタートとしては、なかなか順調です。いろいろな貧困とか精神的な親の悩み等が様々に絡んでくるので、ときほぐすのは大変ですが、でも良くやってくれております。 2つ目は、児童相談所についてです。「高崎の子供は、高崎で守る」という強い信念で、児童相談所を高崎に作るということで準備を進めていまして、来年中くらいにはスタートしたいです。全国の児童相談所の欠点を高崎は解決していこうと思います。何が欠点かと言いますと、児童相談所の職員は、専門家が多いのですが、大学院で勉強した方が圧倒的なものですから、論文を書くのはうまいのですが、行動するのが苦手という方が多いです。全国の児童相談所の全部とは言いませんが、どういうことが起きているかという、通告を受けて児童相談所が対応する際に各家庭に行きますと、門やドアを開けてくれないということがあります。開けてもらえないので、児童相談所の者は帰ってしまいます。その間に子供が亡くなってしまいます。高崎市の場合は、法的に権限はあるのですが、無理矢理にドアを開けてでもやるという「行動する児童相談所」というのを標榜してやっていこうと思います。相談員が身の危険を感じることもあるということで、警察署とも協力体制を組んでいます。そういう形で進めていきたいと思っています。今、準備が進んでいて、あと1年くらいの間に更に準備をしっかりとしていきたいと思っています。 それから、学校のいろいろなものを直していかなければなりません。これは予算の関係もありますので、予算の確保には努力をしなければならないのですが、来年、学校給食費の無償化に踏み込むことにしました。高崎市は、子育て環境については一生懸命にやっているつもりなのですが、給食費の無償化ということについては建前として踏み込んでいませんでしたので、群馬県で唯一、高崎だけやっていないと批判を受けていました。これはいろいろな考えがありますが、貧困にある家庭の場合には、今でも給食費は無償になっています。それ以外の場合には、子供の給食費は保護者の方々に出して欲しいと、世の中の半分くらいはそういう意見の方が多いです。そういうことで、給食費の無償化には踏み切ってきませんでした。高崎市が唯一残っていると批判を受けまして、それに対応するというのが1つと、やはり、物価高の状況で若い夫婦や家庭の負担を少しでも軽くするというのが必要ですので、給食費の無償化することに踏み切りました。全部市費なものですから、半分の子供の給食費を無償化するのに9億円、全

教 育 長	部の小中学生を含めると１９億くらいになります。毎年の１９億というのはいくら何でも出せません。私は、予算書を細かいところまで見られますので、どう捻っても１９億は出ないものですから、今年は、第２子目以降は無償にしよう。第１子目は１０％くらい安くしようということで、それは１０億弱です。これはいざとなれば捻り出せます。その分、他にかなり協力していただかなければならないのですが、それで踏み切ることになりました。本来は、市費ではなくて国や県の助成があれば本当に助かるのですけれども、今、助成に踏み切る見通しが無いということで、当分は苦しいのですが。全市町村、同じ課題を抱えているので、群馬県選出の国会議員や知事に対して助成制度のお願いをしています。あまり色よい反応がありません。そういう働きかけも続けていきますが、助成が無いことが大きく響いております。予算上響きますけれども、高浜のごみ焼却場の全面改築が終わりますので、来年は２％減くらいの予算を編成しようと考えています。その中で少しでもやり繰りできるものはやっというと思っています。学校の普通教室への冷房設置は完了しましたが、体育館の冷暖房は少しずつしか進んでいませんでした。これは議会にかかる予算でありますから、私どもはこういう案で提出するつもりだということですが、体育館については倍以上のスピードアップをしたいと思っております。それから給食室です。高崎市は自校給食と言いまして、共同の調理場ではなくてそれぞれの学校で調理をしております。これは高崎市の特色でして、行政効率で言うと効率はとても悪いのですが、大事にしていきたいと思っています。その調理場の冷房のないところで働いている状況が大変厳しくなっています。少しずつ調理場の冷房を入れるということで、少しスピードアップして、大幅に予算アップした原案をお出ししようと思っています。他にも例えば、議会等で指摘を受けたような学校図書館の整備は、蔵書の数が乏しいと、前から学校図書館について関心がおありの議員から指摘を受けておりました。それを少しでも手厚くしていこうと予算を詰めています。できることはやっていきたいと思っています。 次に、個人的に関心が高いのは学力の増進ということです。調査の結果を見ますと、高崎市の子供は基礎学力は良いのですけれども、とても良いわけではありません。特に英語力がもう少しアップさせたほうが良いのではないかと思います。英語の力を子供達に付けさせるというのは、いろいろな県で、例えば教育課程の特別指定を受けるような授業時間を増やす学校はあります。私は、授業時間を増やすだけでは効率が良くないと思っています。しないよりは良いのですが、もっといろいろな手法があるのではないかと思います。教育長にもよく検討するようにお願いしております。高崎市は、ネイティブスピーカーを全校配置しています。高崎市くらい人口が多いところで、全校にしっかり配置しているというのは、そうはないのですけれども、今年から大きな学校には複数人を配置するということに踏み切りました。また、全国で高崎市しかやっていないのですが、ＰＴＡに努力していただいて、放課後や休みの日等に保護者が自ら学力アップのお手伝いをするという仕組みをやっております。ＰＴＡの皆さんにも頑張ってもらっていただいて有り難いと思っています。だいたい算数や数学のウエイトが大きいということですので、英語のウエイトを大きくしてほしい等、教育長にいろいろな案を考えてくださいと言っております。 意見交換に先立ちまして申し上げさせていただきました。本日はお忙しいところ、ありがとうございます。 ありがとうございました。 本日は、高崎市の教育施策を中心に、委員の皆様が一番関心のあるテーマについてお話ししていただき、そして市長からコメントをいただくという形で進めたいと思います。限られた時間ではありますが、よろしく願いいたします。 それでは最初に、田野内教育長職務代理者から、お願いいたします。
--------------	---

田 野 内 教育長職務代理者	私からは、いじめ防止対策事業、いじめ対策の更なる強化について今年度教育委員会で行った取組についてご報告をさせていただき、その後に市長のお考えを伺えればと思います。 毎年、いじめ防止プログラムを基に、4月には校長先生によるいじめ根絶宣言から始まりまして、学校行事や学級活動、生活指導、教育相談、また家庭・地域との連携を通して小中高一斉に行っております。また、学校生活における、いじめの芽を早期に発見する視点や感性を磨く研修を2回実施しております。今年度、第1回は5月に講師を招いて行いました。第2回は12月26日に、いじめ防止こども会議と併せて実施予定となっております。その他にも、いじめ防止を啓発するクリアファイルの作成ですとか、ポスターコンクール、いじめ防止推進協議会を7月に開催しました。各機関のいじめ防止の取組についての情報の共有ですとか、連携していくことを確認しております。第2回会議は、来年の3月に予定されております。 いじめについては、やはり非常に深刻な問題だと思います。例えば、登校拒否に繋がる等、いじめを受けた子供達の心身への影響も大変に心配です。そういう中、いじめを防ぐためにはどうしたらいいのか、更にいろいろなことを対策していく必要があるのか、また、学校や保護者、地域、社会全体で対策を講じていくことも必要だと思います。いじめを受けた子供が声をあげる、信頼できる大人や友達に相談できる、これも重要なことだと思います。こういったいじめ防止について市長のお考えをお伺いできればと思います。よろしくお願いいたします。
市 長	いじめというのは、いろいろな理由がありますが、いじている人間が悪いというのは、はっきり言っておきます。私は、文部省にいた時に調べました。いじめをなくすためにどうしたらいいのか、先生が介入したらどういったことが起こるか調査しました。いじめを先生方に話すともっと壮絶ないじめが起こると思うでしょうけど、違います。いじめに対して先生が適切に介入すれば、いじめはなくなります。いじめがなくなったかを先生に判断させますと甘い判断もあるかと思いますが、いじめられている子供に、その後どうだったかしっかり調査しました。介入すると被害はなくなっています。適切にいじめるほうが悪いという姿勢で介入すると、やはり防止になります。そういう形で各学校に報告しました。どうしてかと言いますと、今は働き方改革で生徒指導が緩んでいるように感じます。前教育長は、教員ではなくて子供達自身に働きかけをしました。良いアイデアだと思いますが、私は子供達が解決するにはなかなか難しいのではないかと思います。やはり先生や親が介入するほうが良いと思います。少しそれが緩んでいるのかなと思います。生徒指導というのは、昔から敬遠された言葉ですが、それをやらないといけないと思います。これは私の意見です。先生がいじめを知らないはずはありません。30～40人の子供を相手にして、大人数だから気が付かないということはありません。プロだから気が付くはずです。私の経験では、30～40人くらいの学級で、この子がいじめられているというのはわからないというのはプロではないと思います。また、学校はいじめのアンケートをしますが、そういうアンケートはしないといけないのでしょうか。アンケートに皆さん本当のことは答えませんから。それからスクールカウンセラーがいても、できることは限られていると思います。学校に1～2週間に1回とか来るわけですが、子供は心を開きにくいと思います。子供はいつも一緒にいる人に対して心を開くのであって、スクールカウンセラーだけを頼りにしてはいけないと思います。毎日、子供と顔を突き合わせる人間が適切に介入することが必要だと思います。
教 育 長	ありがとうございます。次に移ります。塩野委員お願いいたします。

塩 野 委 員	市長の先ほどのお話の最後にも出てきましたが、児童生徒の学力の向上についてです。授業時間以外の学力向上の対策についてお伺いしたいと思います。先ほど市長もおっしゃられていた通り、現在、各学校で保護者や地域ボランティアによる学力アップ推進事業として、放課後、主に算数について丸付けとか、わからないところの指導を行う等、学力の底上げということで大変貢献いただいていると思います。高崎市の学力の水準は、全国平均から見ても高いと伺っておりまして、そのような地域のバックアップが影響していると思うので、保護者や地域の皆さんには大変有り難いと、私も一保護者として感じております。底上げの一方で、やはり突出して高崎市の子供の学力を引っ張っていくような取組も同時に欲しいと思っております。現在高崎市は、市長もおっしゃられていた通り、英語に力を入れている印象がとてもあります。全学校にALTを配置したり、今年度もイングリッシュフェスタ、イングリッシュサマースクール、それからイングリッシュバスツアーが夏休みに開催されていたり、子供達が生の英語に触れることができるイベントがありました。子供達にとっては、生の英語に触れるというのは良い経験だと思います。ただ、一方で人数が限られてしまっていること等、一日限りのイベントになってしまっていると思います。このイベントを増やすといっても、先生達や教育委員会の準備も大変なことだと思います。言葉というのは、日常的に触れることでより理解と習熟度が深まっていくものだと思いますので、継続した何かが欲しいと考えてみたところ、例えば、くらぶち英語村がありますが、県外からもとても人気があつて、私の娘も今年、夏休み短期留学に行ったのですが、倍率が5倍でした。本当に行けたことがラッキーと思っております。また週末だけ通うコース、年間を通じて寮に住んで留学する子達も全国から集まっていると伺っております。やはり、日常的に英語を使う環境に身を置いて英語や外国文化を習得しようという、子供とその保護者の高い関心が窺えると思っております。今、高崎市もどんどんグローバル化しておりますので、是非「音楽やロックの街・高崎」の次は、「英語力の街・高崎」ということで、高崎市の児童・生徒が「高崎の英語力は凄い、教育が凄く進んでいる」と言うような取組をお願いしたいと思います。具体的には、高崎市は日本ジュニア数学オリンピックを目指す「チャレンジ・ザ・日本ジュニア数学オリンピックin高崎」というプログラムが数学で行われていて、それは4ヶ月間、計8回のプログラムのようです。こちらでも大変人気と伺っておりましたので、英語においてもこのようなコースとか、継続して年間で行き組めるようなプログラムがあったら良いと思っております。
市 長	塩野委員のおっしゃっていることはよくわかります。英語力を上げるために、一部の子供に、というのも大事ですが、全体がやらないと。PTAが学力向上に手助けするというのは、全国で高崎市だけです。地域が協力する、実際にそういうことをやっている学校は、そうはありません。せいぜい、体裁だけ整えている。毎週のように子供達の現場に行って学力増進のお手伝いをするということをPTAがやっているというのは、高崎市だけです。私は、是非これをやってくれと言いましたが、とても反発がありました。教えられる人がいないと。もし本当にいないのであれば、高崎経済大学の学生とか、探せばいます。おかげさまで、大変頑張ってくださっていて、指導にあたってくれる方々で研究会や会議を開いたり、熱心にやっていただいています。こういうシステムを英語のほうに少し重点を置けないとか、それも1つの選択肢として良いのではないかなと思ってます。今の学力向上作戦で収まらなかったら違うシステムでもと議論し始めています。インターナショナルスクールだとか研究させています。しかし、難しい。なぜかと言いますと、ハードルが高すぎる。専門学校のようなものを作ることではできますが、ちゃんとした学校教育の中でそういう学校を作るというのは、ハードルも多くて、それも一部の子供だけになってしまいます。高崎市としては全体を

教 育 長 新 井 委 員	やりたいわけです。英語力を全体で上げる、国際化に向けた子供の育成ということで。最近ヒアリングのウエイトが大きくなってきているので、ネイティブスピーカーの授業を増やすのが良いか、音声教材が良いのか研究していきます。教育委員会でも検討していただきたい。 ありがとうございます。では次に新井委員お願いいたします。
	まず初めに、最近の群馬県の感染症の状況を少し述べさせていただきます。新型コロナウイルス感染症は、1ヶ月前から徐々に増加しまして、一方、インフルエンザはほとんどA型ですが、この2週間で急速に増加傾向です。各学校、学級閉鎖もだいぶ増えてきております。インフルエンザの年齢分布ですが、0歳児から高齢者まで広く分布して、だいたいピークが10歳前後、学校へ行っている児童ですね。乳幼児はやはり脳症が心配され、高齢者は肺炎が心配されます。一方で、新型コロナウイルス感染症の年齢分布は、10歳以上から高齢者の方が多く、10歳以下の方の発症は少ないようです。小児の重症例というのは今まで見られましたが、統計的には数は少なく、一方高齢者は、だいぶ死亡率が下がってきて、それで5類になったわけですが、現在でも高齢者の死亡率はインフルエンザの1.7倍と言われております。高齢者の感染が非常に心配されるところです。また、現在、咳の強いマイコプラズマ感染症が徐々に増加傾向で、小児の報告が多くて、1歳以下の発症も見られます。必ずしも肺炎になるとは限らず、軽症例もあります。咳が長く続くとか、咳の強い方はこれが関与している可能性もあります。以上が感染症の状況です。 次に、小児の視力低下についてです。令和5年度の高崎市の児童生徒の裸眼視力は、1.0未満の割合が、小学校で38%、中学校で66%くらいとなっています。全国的にも視力低下は徐々に進んでいるという傾向が見られます。視力に関しては、2つの興味深い研究があります。1つは、台湾で2010～2015年まで小学校1～6年生までの全児童を対象に、1日2時間の屋外活動を行ったところ、視力低下の児童が少なくなったという報告が有名な雑誌に載りました。もう1つは、2020年にハルマンという方が、これも有名な眼科雑誌に出した報告ですが、近視が強くなると将来緑内障や網膜剥離等、失明に繋がる病気になる可能性が高まるという報告です。近視の原因は遺伝的な要素と環境的な要素の両方が介入すると言われていますが、近年の増加の一因としては、やはりスマホ、デジタル機器等の近見作業の時間が増えているということが考えられています。高崎市では、令和4年度に発行した「高崎市GIGAスクール構想における授業実践」に基づいて、ICTを効果的に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実して、その主体的・対話的に深い学びを実現するという構想を目指しているわけです。しかし、今後ICTを効果的に推進していくためには、この視力低下を防止するという観点を充分に考慮していく必要があると考えられます。文科省のこれらに対する注意として、対象からの距離とか姿勢、あるいは明るさとか作業時間、あるいは屋外での運動を推奨する等の注意点を述べており、高崎市もそれらをいろいろな面で実行されたり、あるいは眼科の先生の講話会を開いたりされておりますが、視力低下を防止していくという観点から、高崎市としての取組を改めて教えていただければと思います。
市 長	私は、学校の授業では気を使っているので大丈夫かと思います。家に帰ってからの生活ですね。テレビを観て、携帯を見て、パソコンを見て、それでは常識的に眼が悪くなります。しかし、それをやめてほしいと言っても、それは家庭内で子供と親との戦いが始まってしまいます。皆、揉めていますよ。「2時間もやっているな」とか「うるさい」とか。こういうことがどこまで徹底してやれるのかということだと思っています。学校ではどういう指導をしていますか。

学校教育担当部長	普段の授業の中でも、長くタブレットを見ずに短時間で区切るとか、そういったことはやっています。また、榛名林間学校がありますので、お話があった通り自然の中で体験活動をする、校内での朝の行事や体育等でなるべく遠くを見る等、近視にならないような保健指導をしています。
市 長	親が働きかけても、そうはなりませんから。学校から何か働きかけはしているのですか。
学 校 教 育 課 長	SNSの使用時間制限を9時までとするとか。タブレットの使用時間を寝る30分前までとし、小学生が9時まで、中学生が10時までを目安とするということを発信しています。
市 長	それをどうやって伝えているのですか。保護者に案内しているのですか。子供達に言っているのですか。
健 康 教 育 課 長	学校保健委員会が学校では年に3～4回開かれております。今の学校の課題として、やはり視力低下というのはどの学校も取り上げているところも多いですから、そこにはPTAも参加しております。その会議で出たことは、「保健だより」等で全部の保護者にも伝えております。
市 長	学校保健委員会というのは全国でトップ水準のものですが、だからといって親に届くわけではないですから。「保健だより」は皆読んでいるのでしょうか。
学校教育担当部長	タブレットでも見られるようにデジタル化して、なるべく目に付くようにしております。
市 長	ざっくばらんに言って、これは経験則ですが、字が3行以上書いてあったら読まないものです。映像は30秒続いたら緊張感は持続しません。学問的に言われている話ですが、3行以上書いたらぱっと目が離れてしまう。だから、今の「保健だより」というのは、しっかり読む人は一握りかと思われます。皆、家で揉めていますよ。親の言うことは聞かないから。だけど、「将来、眼が悪くなるよ」と言っても子供は聞かないですからね、将来の話をされても。健康診断の時に言っても聞きませんからね。これは、一人一人の家庭に言うのは至難の業ですよ。ペーパーを作っても、無いよりは良いのでやる価値はあるとは思いますが、読まないでしょう。読んでも頭に入りませんし。 学校保健委員会は、よくやってくれています。それは素晴らしいと思いますけれど。眼が悪くなると成績が落ちて受験に失敗します、というデータでも出れば違うかもしれませんが。そういうものは出ませんから。どうしたらいいのか、教えて欲しいものです。
新 井 委 員	最近の報告ですと、将来失明に繋がる、そういう怖いデータもあります。
市 長	子供には将来の話は通りません。今が楽しいから良いという。どうしたら良いですかね。昔は電話で1～2時間も話していたら親に注意されたでしょう。今はスマホやパソコンですが、親が言っても聞きません。 それと、体力の話ですが、体力調査という分析を専門家にしてもらうのは良いのですが、今の子供達は、持ち上げて支えるとか忍耐力とかは苦手で、敏捷性とかそういうのは良いですね。汗をかいてコツコツ努力する、そういう体力がないですね。そういう特徴が今の時代の特色だと思います。悩ましいことです。子供の心に届くようなことを工夫しないといけません。これこそ、いじめ防止と

	同じ方法を使って子供を取り込ませるとか。 今の教育で最大の問題は何かといったら、日本人の子供は勉強する意欲がないということです。勉強する意欲を持つにはどうしたら良いのか。子供達を何千人集めて、どういうきっかけがあると勉強する気になるかという調査をしました。そうしたら、半分、回答は白紙です。一度もないですから、勉強を好きになることは。回答の中に、母親が言っても聞かず、父親が向き合っても聞かなかったというものがありました。そこで、何が良いかと言ったら、徹底的に本気で褒めてあげるということです。例えば、試験が50点しか取れない子供が、少し頑張って70点が取れたら「平均は80点なのにお前は70点なのね」と答えたら駄目です。50点の子が70点を取ったら本気で褒めてやりなさい。そうすると頑張るというデータがあります。スポーツでも同じです。また、褒め方も工夫しないといけません。良い点を取ったらテーマパーク等に連れて行ってあげるというのは全く駄目です。何が1番良いかと言いますと、普段、朝食に昨晚の残りものを食べているなら、70点を取ったら玉子焼きを朝に作ってくれた、そういうのが良いです。 研究しましょう。私の意見はそんなところですよ。よろしくお願いいたします。
教 育 長	ありがとうございました。 では最後に、横田委員お願いいたします。
横 田 委 員	私からは、学校施設等の整備事業についてお話を聞かせていただければと思います。事業の概要として4つの柱、体育館への空調設置、給食室への空調設置、楽器の補充・更新、図書費の増額、こちらを柱として事業を進めていると思います。体育館と給食室への空調の設置は、市長もおっしゃった通り、近年の異常気象がどんどん進んでいく中で、予算に限りはあるかと思いますが、早目な対応をしていただければと思います。特に給食室。高崎市の給食は非常に美味しいと、大変評判にもなっておりますので、働く人達の安全な職場、労働環境の確保という面でも、是非進めていっていただきたいと思います。また、楽器の補充・更新ですが、高崎市は特に「音楽のある街・高崎」、最近「ロックな街・高崎」というものを掲げて、音楽に親しみがある高崎市として認知も非常に上がってきていると思います。マーチング等でバンドや吹奏楽部の皆さんが頑張っているのはもちろん承知しておりますが、それ以外の児童達にも音楽に携わるようないろいろな施策をご検討いただければと思います。また、図書費の増額ですけれども、最近、活字離れが非常に進んでいると思います。やはり、何でもネットで調べて、テレビで観て、本を実際に手に取って読むという機会が今の子供達は少なくなっているのではないかと思います。本を充実させて興味のある本を導入することももちろん必要だと思うのですが、図書館に行く機会を増やせるような、読書は楽しいということを子供達に教える様々な対策を考えていただきたいと思います。単純に本を増やすだけで子供達が図書室に行くということでもないと思います。是非、いろいろな子供達が、皆が携わって、皆が良くなる、そのような学校設備をご検討いただければと思います。
市 長	これは、お金の問題です。私の経験ですが、文部科学省で学校給食課長のポストにいた時に、財務省に「給食室は、共同調理場。単独調理場は効率が良くない」とずいぶん言われました。でも、高崎の特色ですから頑張っていこうと思います。共同調理場が悪いわけではないからそちらも応援しないといけません。体育館もお金の話です。図書の話ですが、私が子ども図書館を作ろうとしていましたら、子ども図書館より学校の授業をきちんとするべきだという意見もありました。両方やろうと私は思っています。学校図書館の整備が割を食ってきたのは事実です。その流れは変えたいと思っています。校舎も古いものがありますし、直して

教 育 長	いかなくなくてはならない。年数だけで判断するものではありませんが。乏しい予算の中、頑張ってやるしかないです。 先ほどの学力向上に関してですが、良いアイデアがあればよろしくお願いします。高崎市は子供の進学実績があまり良くありません。割合、保守的ですから。 受験というのは、手が届かないけどひょっとしたら受かるかもしれないというところ、少し努力すればいけるかもしれないところ、だいたい受かるかもしれないところ、絶対受かるところ、この4択で受験するものではないですか。その上の方を受けないで安定したところしか受けない。どうもそういう体質があるように思われます。就職先に関しても、私が県立女子大の学長をしている時に同じように思いました。群馬や高崎の子で、将来、金融機関に勤めたい子達は地元の銀行や信用金庫は受けに行くのですが、都市銀行は受けに行きません。東京の子に負けると思っているからです。君達の方が偏差値が高いのだから頑張rinaさい、と言うのですが、受けに行くのに何年かかりました。負けると思っているからです。そんなことはないのですが。唯一、東京の子と比べての弱点と言え、少し保守的です。高崎市の若者は、儀式が上手です。儀式がうまい、誰に挨拶する、年功序列でこうする、そういうことに詳しい若者達です。式次第等がうまいというのは中高年層の話です。若い時はやりたいことをやれば良いのに就職先の選択にも保守的です。チャレンジ精神がなく安定思考です。これは少しまずいかなと思っています。それを突破するためには、スポーツ等で充実感も味わってもらいたい。体験合宿を増やすとか。ライオンズクラブ等も小学生にラグビーをやらせていますが、タックルができないそうです。穏やかな人が多いのですが、それで良いのかなと思います。 市役所でも、以前は総務省の研修に行くのが優秀な職員の登竜門的なところがありました。それをやめさせました。入ってきて研修等は行かなくて良い。それよりも、英語ができなくても外国へ行ってください。ロサンゼルスと高崎のマツクの味が違うということ等勉強になります。そうすると発想が飛躍します。毎年、1～2人だったのを10人くらいにしました。 お願いしたいのは、英語をどう充実させるか。それから今、新井先生のお話しされた眼の件はどう手を打っていくか。雑談みたいな発想はできますが、組織的にどうやるかということですよね。市民の理解を深めてもらうのは難しいことです。 ありがとうございました。 本日は、市長と教育委員の意見交換の場で、市長と皆様の思いをお互いに言い合えたのではないかと思います。大変有意義なものになったと有難く思います。 以上で、令和6年度高崎市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。
--------------	---